

# 次期佐賀市総合計画（案）の概要



# 計画の目次（案）

## 第1章 序論

- 計画策定の趣旨
- 計画の位置づけ
- 計画の構成と目標年次
  - ・ 社会変化に応じ不断に見直し
- 計画の進行管理
- 社会の潮流
- みなさんの声

## 第2章 人口ビジョン

- 人口ビジョンの趣旨
  - ・ 人口構造変化を踏まえた計画
  - ・ バックキャストिंगの必要性
- 人口構造の変化と推移
- 将来の人口構造等の展望

## 第3章 2040年にめざす姿（基本構想）

- 2040年の将来像
  - ・ 将来像
  - ・ 将来像に向けた目標
- AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり
- 土地利用

## 第4章 各分野のめざす姿（基本計画）

- 横断的な視点
  - ・ 主体性 / 多様性 / 持続性 / 柔軟性
- 分野別のめざす姿（分野別計画）
  - ・ 政策、施策毎に整理
    - 子育て・教育 / 健康・福祉 / 文化・スポーツ
    - 経済・観光 / 農林水産 / 生活・環境 / コミュニティ
    - 防災・安全 / 都市・交通 / 行政経営
  - ・ SDGsと政策の対応

参考資料 データ集

# 計画素案 目次

## 第1章 序論

- 計画策定の趣旨
- 計画の位置づけ
- 計画の構成と目標年次
  - ・ 社会変化に応じ不断に見直し
- 計画の進行管理
- 社会の潮流
- みなさんの声

## 第2章 人口ビジョン

## 第3章 2040年にめざす姿（基本構想）

## 第4章 各分野のめざす姿（基本計画）

## 参考資料 データ集

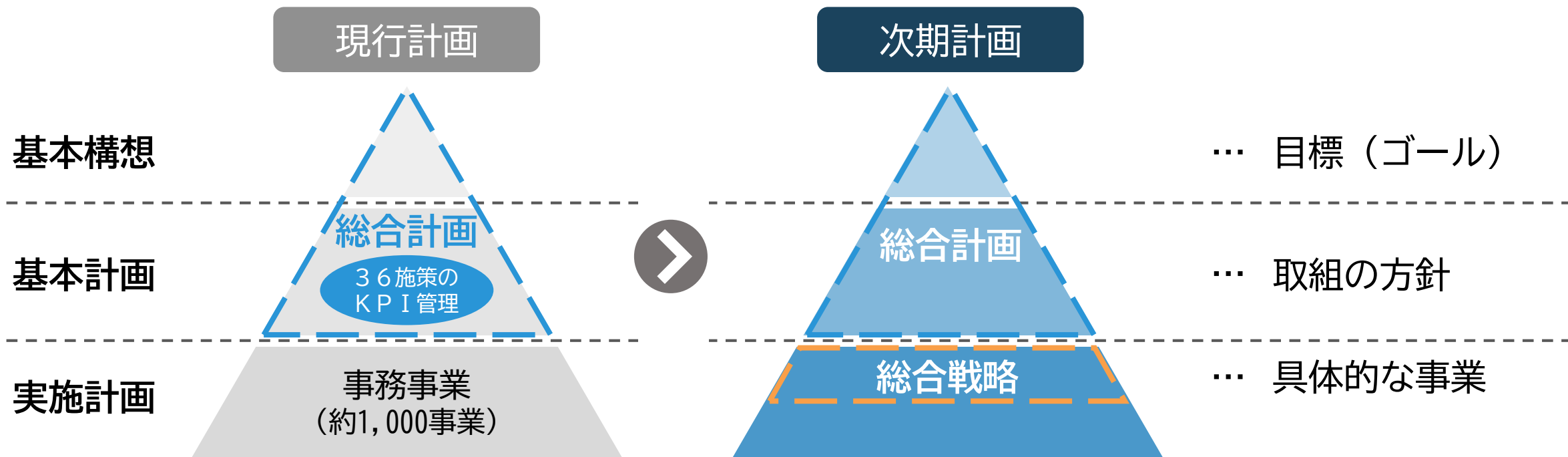
# 第1章 序論 | 計画の構成

## ポイント

- 現行では、総合計画と総合戦略のそれぞれで成果指標を管理（指標が重複する項目も散見）

次期総合計画と総合戦略を体系化

- 総合計画と総合戦略の対象範囲を明確化し、それぞれの計画の連動性を向上させる。
- 事務事業のうち、重点的に取り組む事業を次期総合戦略として取りまとめる。
- 成果指標は、次期総合戦略において管理する。



# 第1章 序論 | 目標年次

## ポイント

- 次期計画は**16年計画**とし、**2040年まで**を計画期間として設定
- 長期の計画期間となるため、**社会変化に応じ不断に見直し**を行う。

2025

2028

2032

2036

2040

次期佐賀市総合計画 [2025-2040 (16年間)]

基本構想 [2025-2040 (16年間)]

市の目指す将来像 等

前期基本計画 [2025-2032 (8年間)]

基本政策・施策等

後期基本計画 [2033-2040 (8年間)]

基本政策・施策等 ※2030年国勢調査を反映

総合  
計画

総合  
戦略

総合戦略  
[概ね4年間]

総合戦略  
[概ね4年間]

総合戦略  
[概ね4年間]

総合戦略  
[概ね4年間]

総合計画審議会  
(R6春～夏)

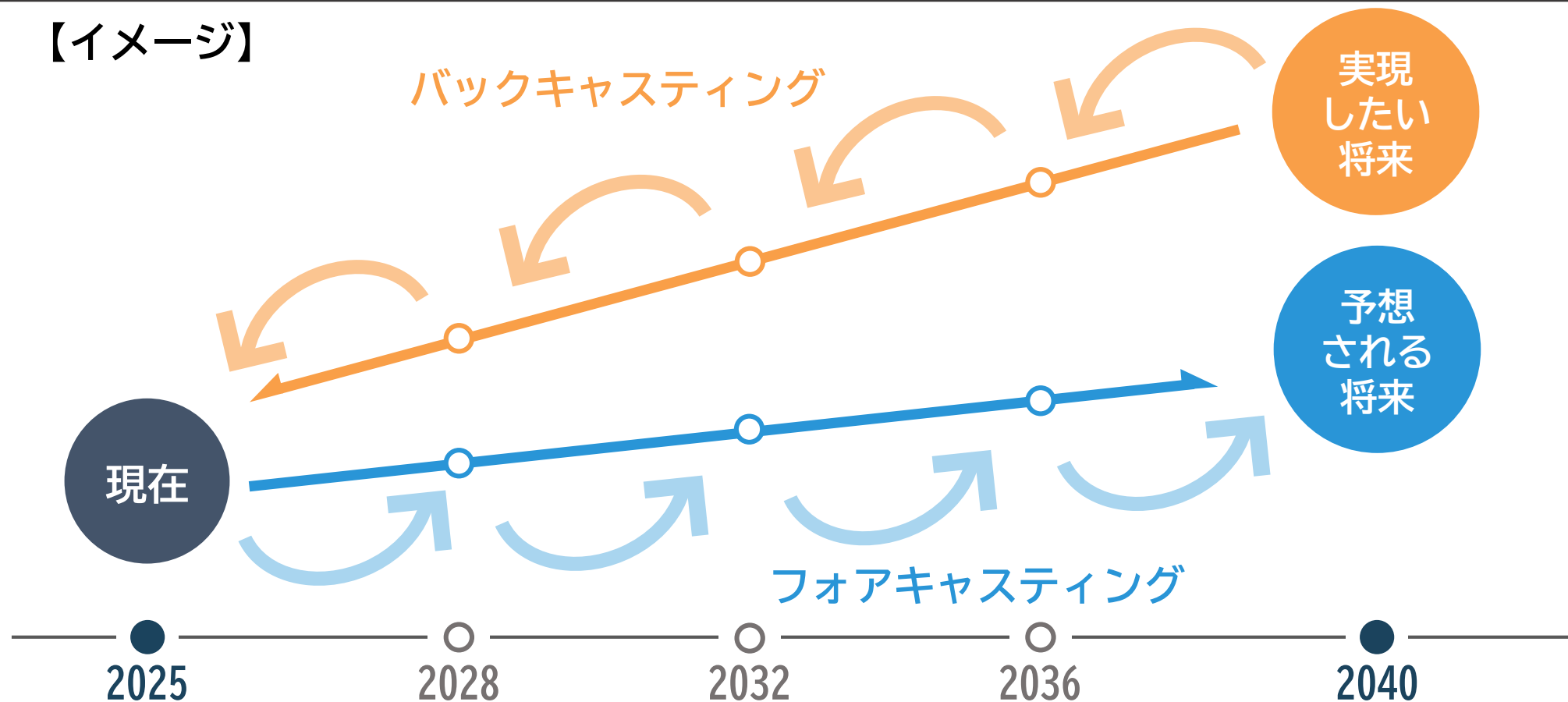
まち・ひと・しごと  
創生推進会議  
(R6夏～秋※別途開催)

# 第1章 序論 | バックキャストिंगの発想

## ポイント

- 人口減少局面では社会全体が縮小することが想定されることから、実現したい将来に向けて、各時点において何をしなければならないのかという「バックキャストिंग」の考え方が必要
- 現行計画と同様、過去からの課題の積み上げを行う「フォアキャストिंग」の考え方に加え、これまでになかった**バックキャストिंगの発想をもって計画策定**を行う。

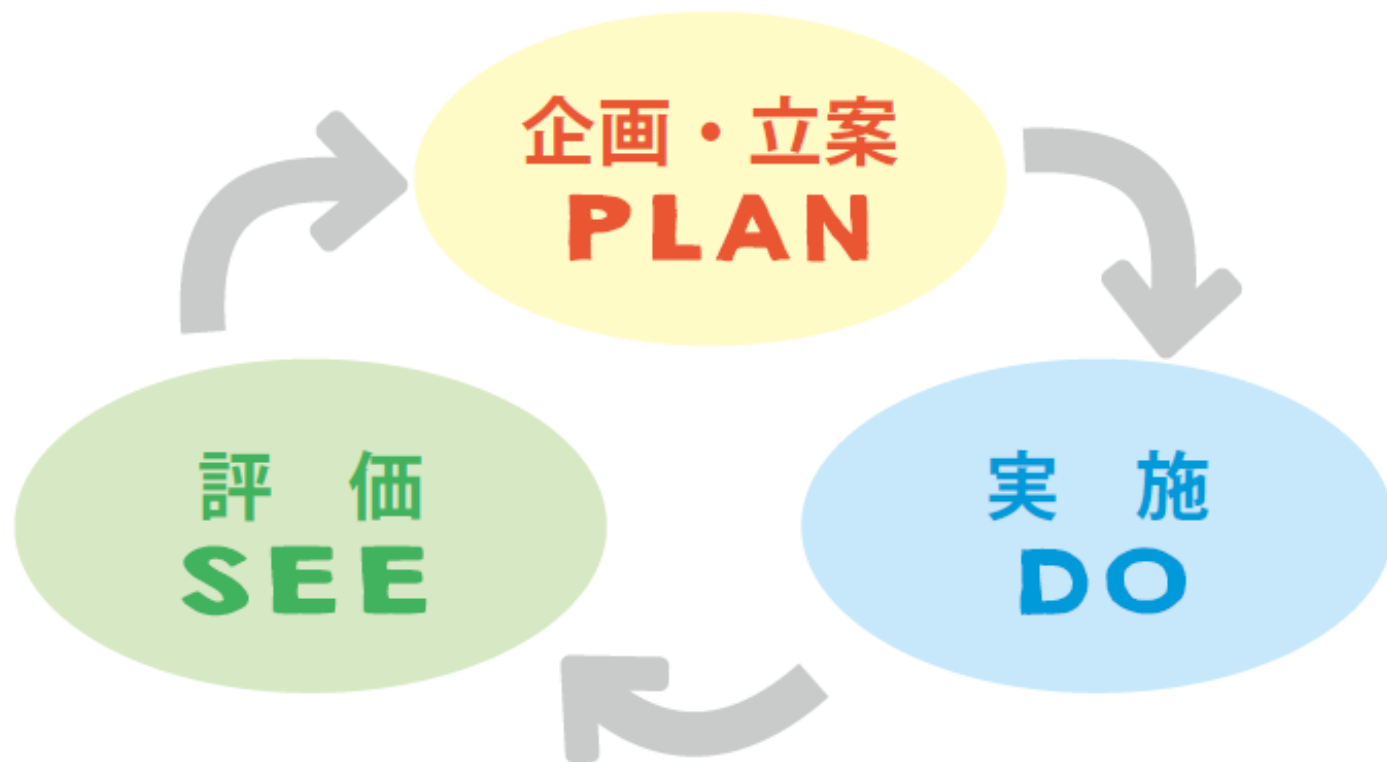
## 【イメージ】



# 第1章 序論 | 計画の進行管理

## ポイント

- 総合計画に位置付けた施策、施策に紐づく事業について、進捗の把握・成果の検証を行い、その結果を次年度以降の施策の実施に反映させていくことが必要
- 行政評価を活用し、総合計画の確実な推進を図る。



# 第1章 序論 | 社会潮流

01

## AI等の最新技術の活用

- AIをはじめとした技術は急速に進歩しており、今後も技術革新が次々と起こることが期待されています。
- 最新技術を次々と取り入れることこそがこれからの地域課題解決の鍵であり、積極的な活用が必要です。

02

## 激甚化する災害への備え

- 近年、気候変動に伴い、9割を超える市区町村で10年間に1回以上の水害が発生しています。
- 防災に向けた基盤整備、自助・共助・公助の災害対策、災害時に迅速適切に対応出来る体制構築を着実に実施する必要があります。

03

## こどもや若者、子育て当事者の視点の重視

- 全てのこども・若者が、身体的・精神的・社会的に幸せな状態で生活を送ることができる社会の実現が必要とされています。
- こどもや若者、子育て当事者の目線に立ち、こどもや若者にとっての一番の利益を考え、個々の状況に応じたきめ細かな支援が期待されています。

04

## 多様性のある社会の実現

- 人々のライフスタイルや家庭、結婚、就労等に対する価値観は多様化しています。
- 価値観や文化の違いをお互いが認め合い、だれもが共生できる社会づくりが必要です。

05

## 文化・スポーツによるまちづくり

- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、文化・スポーツが地域社会や人々の幸福に大きな役割を担っていることが再認識されています。
- する人、観る人、支える人に着目し、それぞれが文化やスポーツに親しめる環境づくりが必要です。

# 第1章 序論 | 社会潮流

## 新しい健康社会の実現

06

- 高齢化の進展に伴い、治療だけでなく日常生活の行動変容を通じた健康づくりの重要性は増加しています。
- デジタルを活用するなど、未来の健康づくり推進が必要です。

## 地域経済における経済循環の重視

07

- 人口減少により経済全体が縮小する恐れがある中、生産性の向上や新産業の育成等が重要です。
- 地域内経済の循環構造に着目し、地域経済活性化に向けた施策展開が必要です。

## 人中心の社会への転換

08

- 人口減少社会においては、一人ひとりの豊かさや幸福度に注目することが重要です。
- 需要が供給に合わせる経済から、供給が需要に合わせる経済への転換などといった、発想の転換が必要です。

## コンパクトなまちづくり

09

- 人口減少下で地域の活力を維持するためには、都市機能の誘導によるまち全体の利便性の向上が必要です。
- 都市機能の誘導にあわせて、集約した各拠点を結ぶコンパクトプラスネットワークのまちづくりが必要です。

## 脱炭素社会の実現

10

- パリ協定に基づき世界各国が地球温暖化対策に取り組んでおり、我が国においても、2050年までの温室効果ガス実質ゼロを目指しています。
- 今後、行政だけでなく市民や経済界も一緒になって、このカーボンニュートラル実現に向けた取組を加速する必要があります。

# 第1章 序論 | みなさんの声（市民アンケート）

## いまと未来の佐賀市のイメージ

### 概要

#### 目的

- 佐賀市民のWell-Beingについて調査するとともに、いまと未来の佐賀市に対する市民の意見を定量的に聴取する。

#### 実施概要

調査地域	佐賀市全域
調査対象	市内に居住する18歳以上
対象者数	2,000人
有効回収数	559サンプル (回収率 27.95%)
抽出方法	旧市町村ごとに住民基本台帳から年齢階層別に無作為抽出
調査方法	郵送による配布、郵送による回収
調査期間	令和5年10月18日～11月12日

### 結果（自由記述）

#### 佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること

- 自然の豊かさに関する記載が多く、バルーンのみちを推す声も多い。



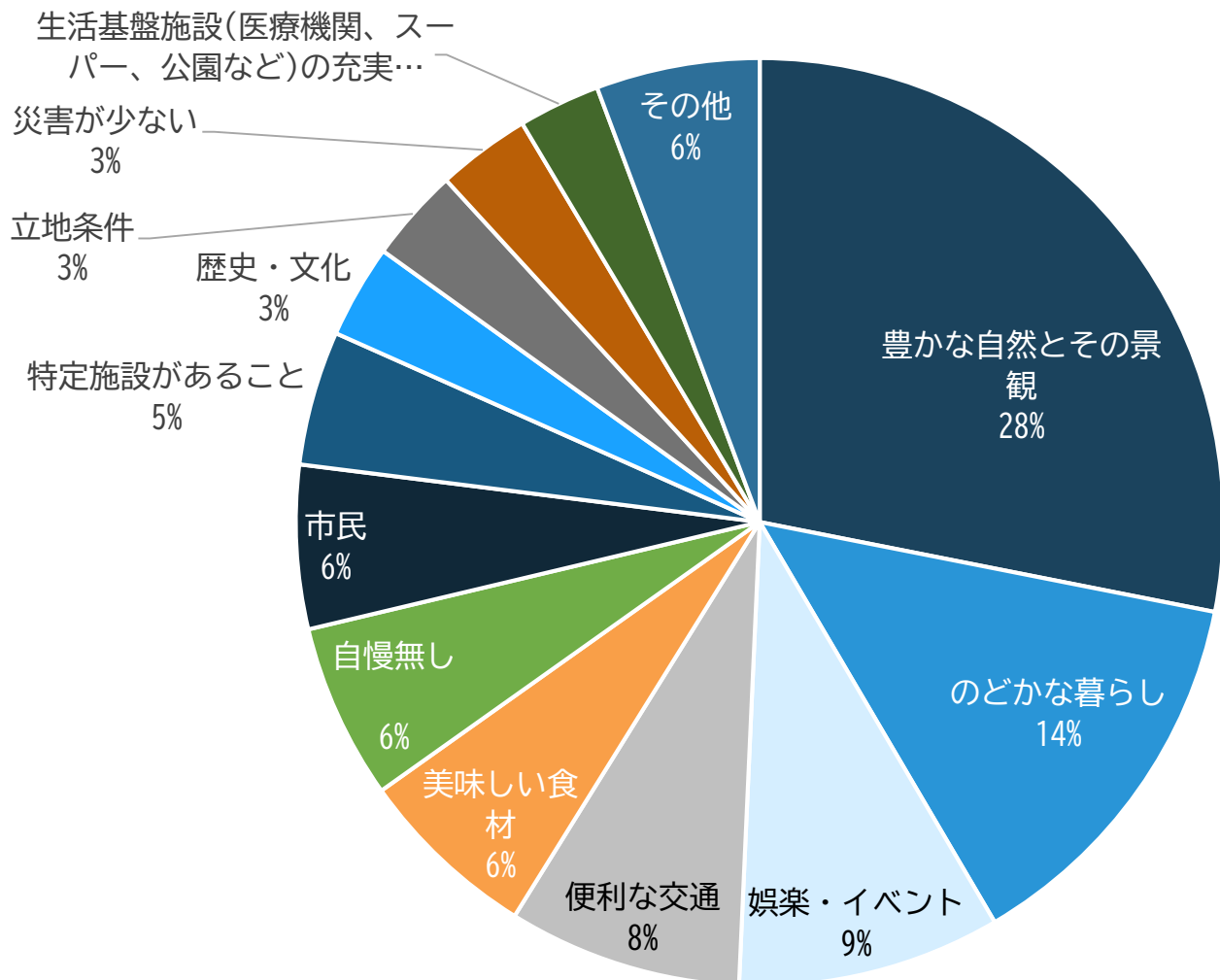
#### 将来の佐賀市が、こんなまちになって欲しいと思うこと

- 「人」「子ども」といった、人中心の将来が意見として多い。



# 第1章 序論 | みなさんの声（市民アンケート）

## 佐賀市の魅力や市外の人に自慢できること（自由記述）



### 主な意見

#### 豊かな自然とその景観

- 自然が豊かで、のびのび暮らすことができる。
- 自然の原風景が残っている。空が広く、大きく見える。

#### のどかな暮らし

- 市街地と自然がうまく調和していて、住みやすい。空気がきれい。
- 田舎で住みやすい、あえてその部分を特化しても良い。

#### 娯楽・イベント

- バルーンフェスタは自慢できます。
- 近年ではアリーナや佐賀駅等利用しやすく、魅力的な街に生まれ変わっていると思います。

#### 便利な交通

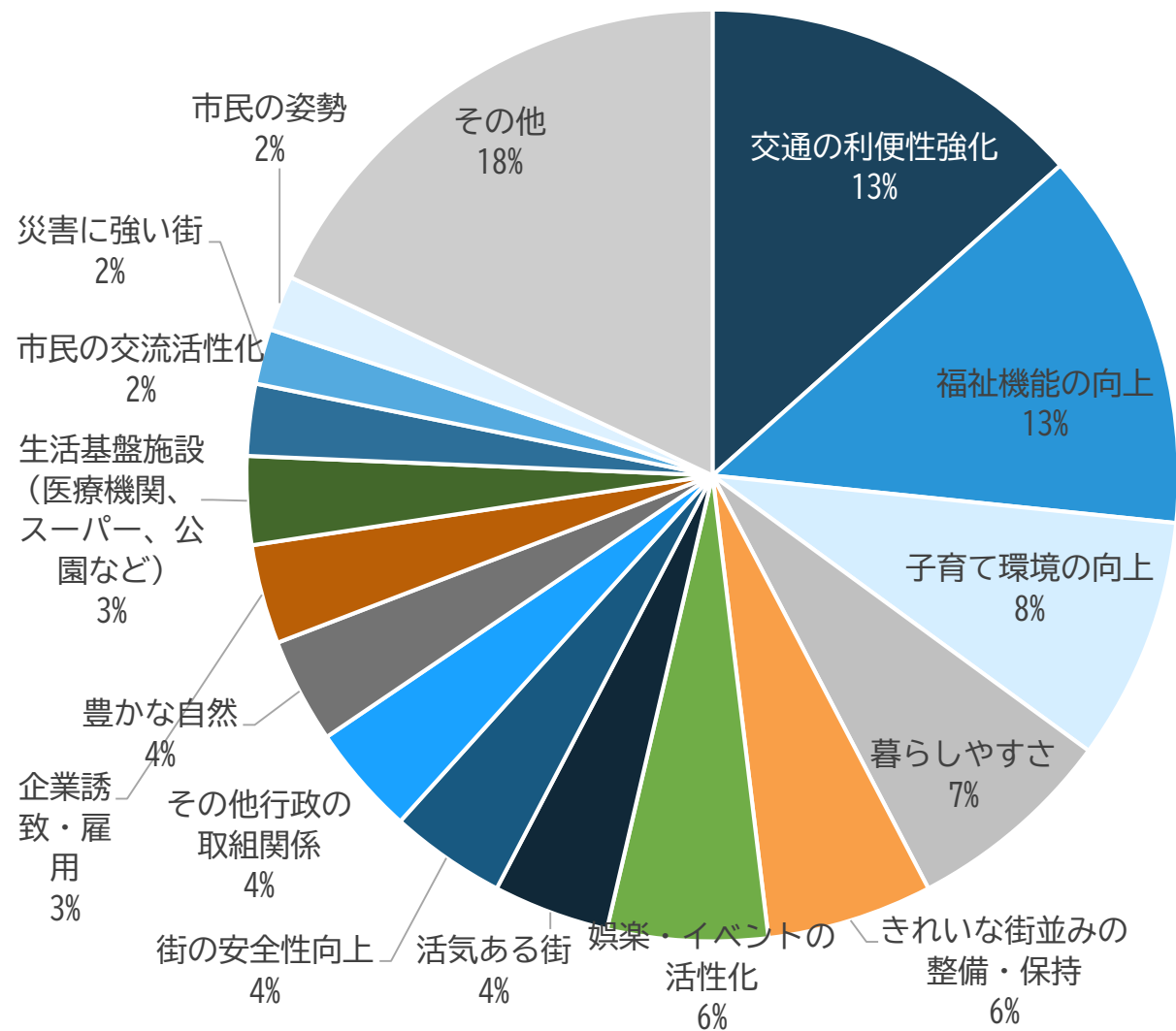
- 空港が近く、身近な存在。佐賀駅を中心に活性化と整備が進んでいる。公園が充実している。

#### 美味しい食材

- 食事がおいしいところです。食材はもちろん何を食べてもおいしいです。

# 第1章 序論 | みなさんの声（市民アンケート）

## 将来(2040年頃)の佐賀市がこんなまちになって欲しいと思うこと（自由記述）



### 主な意見

#### 交通の利便性強化

- 運転免許を返納後、自由に移動可能な交通機関の充実
- 公共交通機関が整い、移動にお金がかからないですむ様なまちにしてほしい。

#### 福祉機能の向上

- 医療・福祉サービスが充実していて、安心して暮らせるまち。
- 子どもにも老人にも支援や介護が受けやすくなるようにしてもらいたい。

#### 子育て環境の向上

- このまちで子育てしたいと思えるまちになってほしい。
- 子どもがのびのびと暮らせる佐賀市になるようにしてほしい。公園など、安全に遊べる場所がほしい。

#### 暮らしやすさ

- 誰もが（どんな世代も）住みやすい地域。誰もが（どんな世代も）生活しやすい地域。
- 都会の若者が、「ゆとりのある暮らしの中で仕事ができるまち」として、あこがれてくれる様な佐賀市

# 第1章 序論 | みなさんの声（高校生ワークショップ・市長と意見交換）

## 計画策定にこれからの未来を担う高校生が参画

### 概要

#### 目的

- これからの未来を担う市内高校生が考える、いまの佐賀市の魅力や未来の佐賀市のイメージについて、市長と意見交換を行い、聴取する。

#### 開催概要

	ワークショップ	ワークショップ	市長と意見交換
開催日	令和5年 10月17日（火）	令和5年 11月17日（金）	令和5年 11月28日（火）
開催時間	14時00分 ～16時00分	17時00分 ～18時30分	14時00分 ～15時20分
開催場所	佐賀市役所	佐賀市役所	致遠館高等学校

参加者  
市内高校生8名  
(龍谷高等学校4名、致遠館高等学校4名)

- 内容
- 佐賀市の魅力・未来の佐賀市のイメージについて個々に考え、話し合い、意見を発表する。
  - 2回のワークショップを経て、最後に市長と直接意見交換を行う。

### 結果

#### いまの佐賀市の魅力は？

- ひとの魅力** 地域の人々が優しくかかわってくる  
みんな明るい
- まちの魅力** 心がおちつくような環境  
定期的なイベント開催（アリーナ、駅前）
- 食べ物の魅力** 野菜をたくさんゆずってもらえる
- 自然の魅力** 自然体験が多くできる

#### 未来の佐賀市のイメージは？ 「笑顔あふれる！未来の佐賀市」

- 教育** 男女の固定観念にとらわれない  
子どもを安心して育てることができる
- まちの多様性** 都市と田舎の特徴を合わせたまち  
いろいろな仕事スタイルがある
- 技術** 交通の利便性など今よりも強化  
AIやリモートの十分な活用
- 交流** 地域と住民のコミュニティの関係を深める

# 第1章 序論 | みなさんの声（高校生ワークショップ・市長と意見交換）

計画策定にこれからの未来を担う高校生が参画



# 第1章 序論 | みなさんの声（大学生ワークショップ）

## 就職を控えた大学生の意見を聞き取り

### 概要

#### 目的

- 佐賀市に興味のあるインターンシップ生の意見を収集し、Uターンや移住等の観点も踏まえた若い世代の市の将来像に係る意見を聴取する。

#### 開催概要

開催日 令和5年8月14日（月）

開催時間 14時00分～15時45分

開催場所 佐賀市役所 会議室

参加者数 20名

#### 内容

- 今の佐賀市はどんなまちか？
- 自身の社会人としての、将来像を想像する個人ワークを行い、班で個人ワークの結果を共有
- 2040年の佐賀市をどのようなまちにしたいか、将来像を想像する個人ワークを行い、その後、班で個人ワークの結果を共有

### 結果

#### 佐賀市に対する印象について

- 佐賀市に対し、**好意的な意見**が多い。
- 佐賀市は自然が多く田舎であること等を理由に、**発展途上のまち**であるとする一方、災害が少ない、利便性が高いなどの理由から、「**住みやすい・暮らしやすい**」とする意見が多い。

#### 2040年の佐賀市の将来像について

- 「子育てのしやすさ」「高齢者の暮らしやすさ」「自然の豊かさ」を重要視する協議内容が多い
- 各班が作成した将来像
  - ① **かえってきたいまち**
  - ② 交通の便が良く、子育て支援が手厚く、偏見などの現代的問題を幅広い世代が意識できているまち
  - ③ 様々な施設が身近になり、住みやすいまちにしつつ、バルーンをより強調した観光施設や佐賀にゆかりのあるアニメなどとコラボレーションを進めていく
  - ④ **自然に人が歩くまち さが**

# 第1章 序論 | みなさんの声 (大学生ワークショップ)

## 就職を控えた大学生の意見を聞き取り



# 計画素案 目次

## 第1章 序論

## 第2章 人口ビジョン

- 人口ビジョンの趣旨
  - ・人口構造変化を踏まえた計画
  - ・バックキャストの必要性
- 人口構造の変化と推移
- 将来の人口構造等の展望

## 第3章 2040年にめざす姿（基本構想）

## 第4章 各分野のめざす姿（基本計画）

## 参考資料 データ集

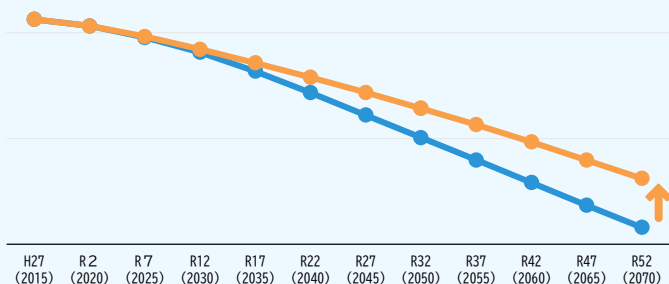
## 第2章 人口ビジョン | 人口ビジョンの趣旨

### 人口推計

- 市の人口ビジョンや国立社会保障・人口問題研究所は、市の人口減少や人口構造変化を推測
- 特に2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となり、人口構造の変化が顕著
- 仮に出生率が回復したとしても、人口減少は止まらず、ある程度の人口減少は防げない。

人口減少は避けられない未来と認識し、  
「少子化の課題」と「人口減少による課題」は切り分けて考える

01 政策を打つことで改善する。  
(人口減少の幅を上向かせる。)



02 「発想を転換」した  
まちづくりを推進する。

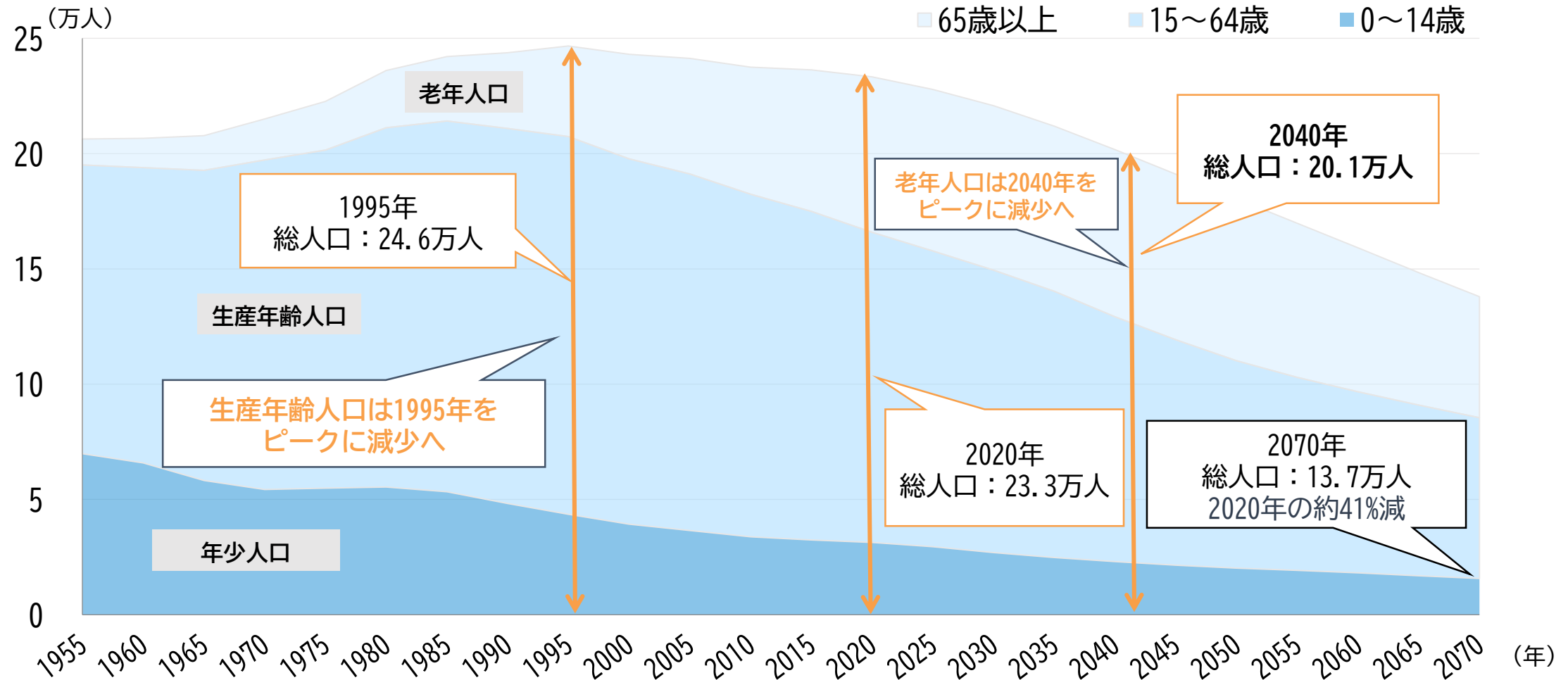


➤ 2040年の将来に向けて、何を行うべきかというバックカスティング思考で取り組む。

## 第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移（将来推計人口）

### ポイント

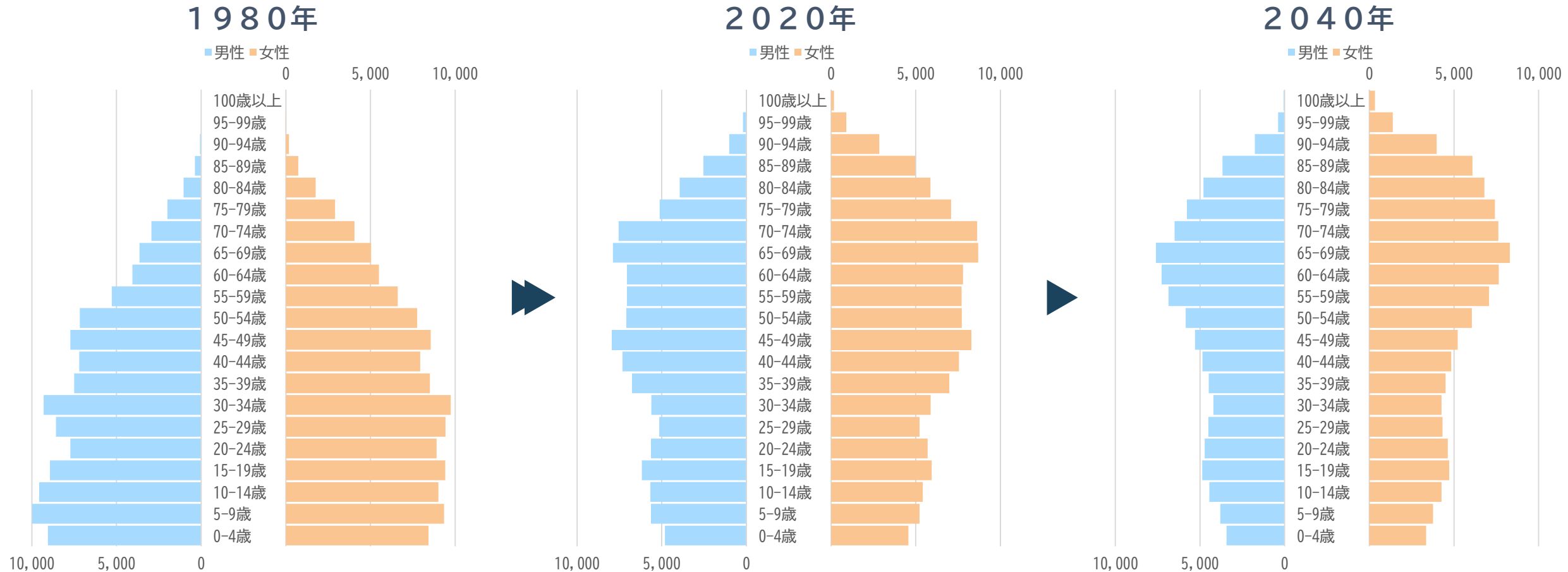
- 総人口は2040年に20.1万人と、2020年（23.3万人）比で14%減になると推計
- 年齢区分別では老年人口は増加を続けているものの、2040年にはピークを迎え減少へ転じる。



# 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（人口ピラミッド）

## ポイント

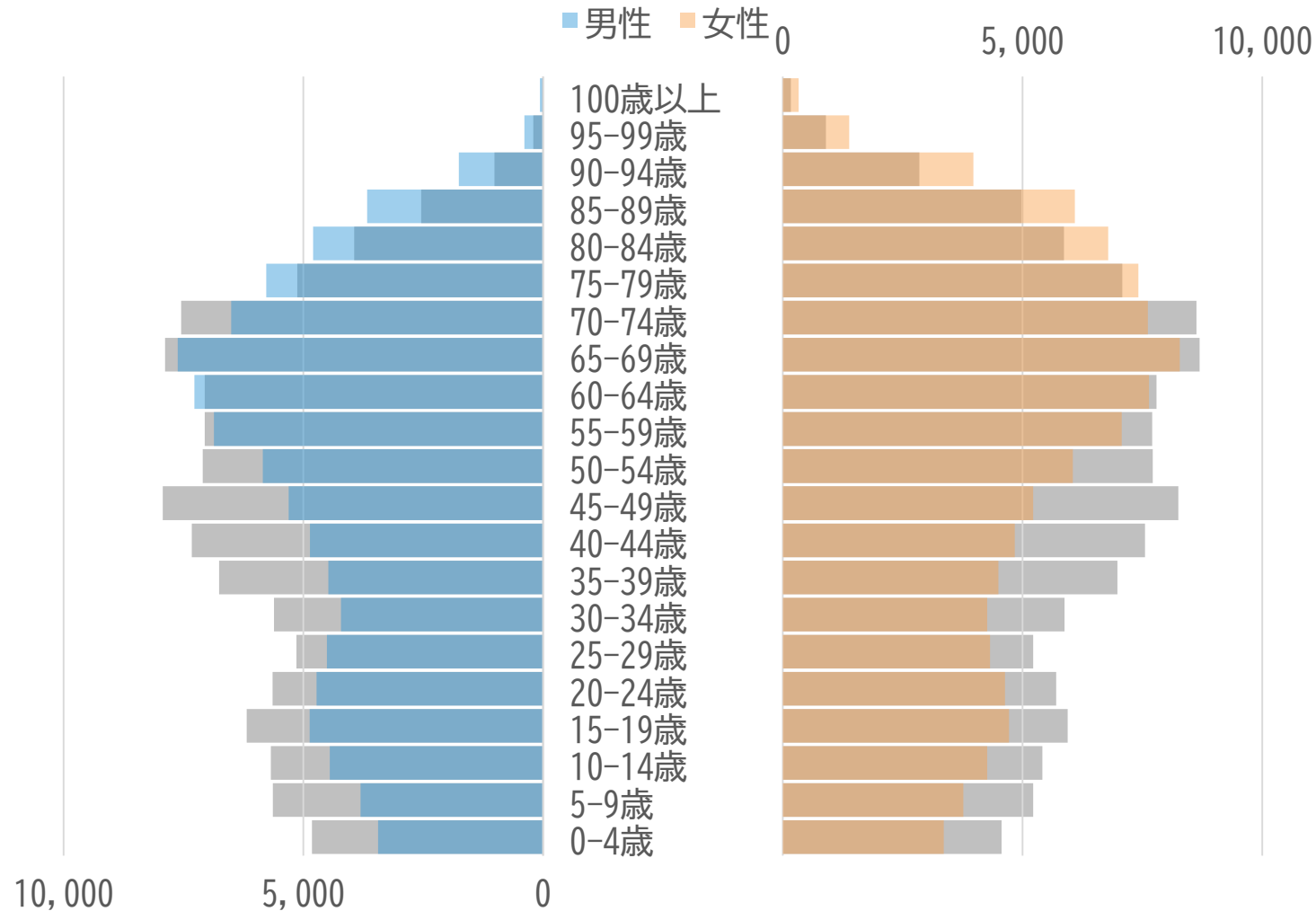
- 2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となる。
- 人口の総量が減ると同時に人口構造が変化し、生産年齢人口約2人で1人の老年人口を支える構造（2020年）から、約1.46人で1人を支える構造となると推計



# 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（人口ピラミッド）

## ポイント

- 2020年と2040年の人口ピラミッドを重ねると、老年人口が増加し、生産年齢人口・年少人口が減少することが分かる。

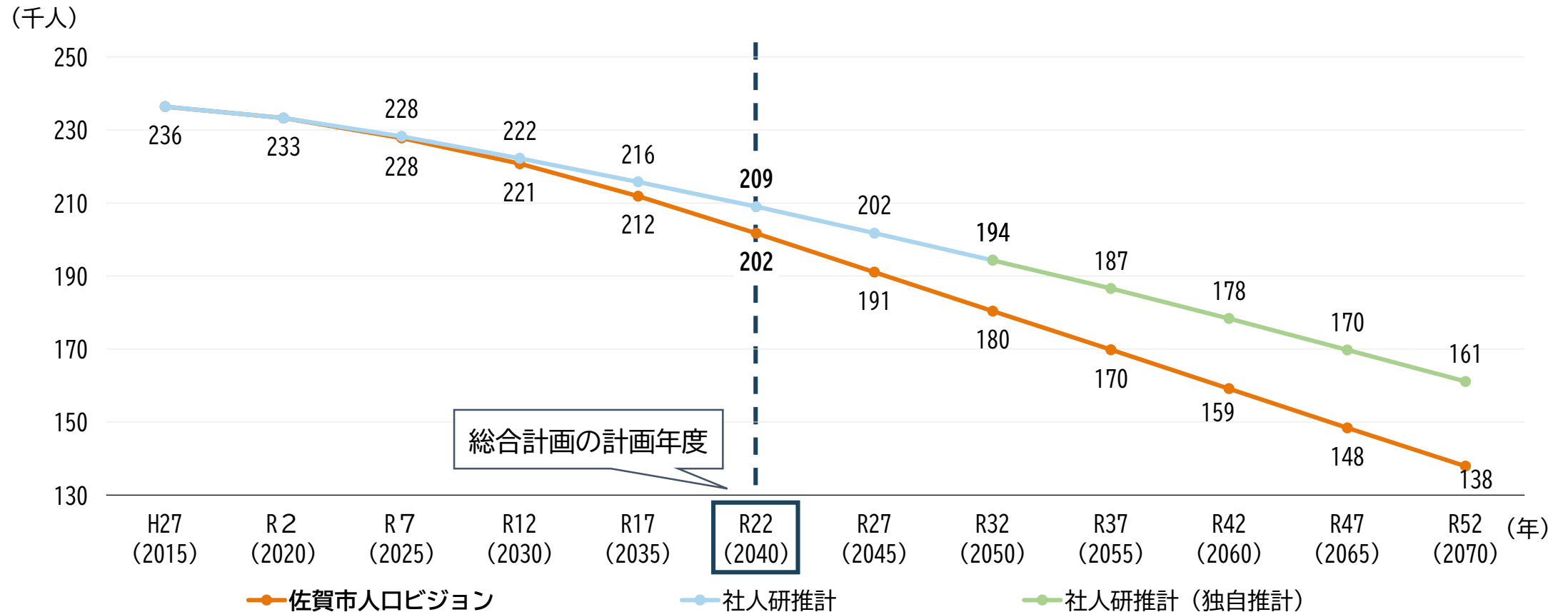


グレー | 2020年  
カラー | 2040年 (推計)

# 第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移（社人研推計との比較）

## ポイント

- 佐賀市人口ビジョン（R4年度）と国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（R5年）の将来推計人口を比較しても、市の人口は減少傾向にあることは変わらない。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計の方が、人口の減少率は緩やか

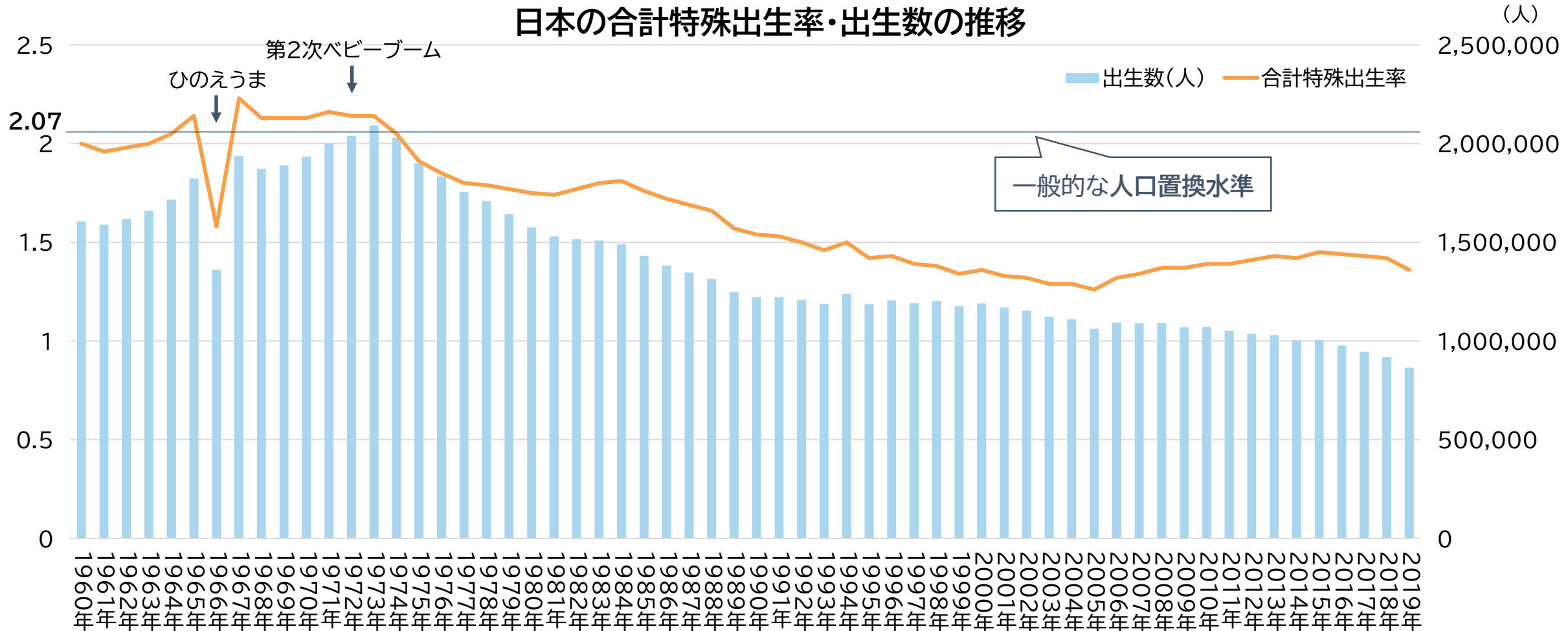


出典 | 佐賀市人口ビジョン（令和4年度）  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」  
※R32以降の推計値は、社人研推計の条件を変えずに市が独自に推計したもの

# 第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移（日本の合計特殊出生率）

## ポイント

- 我が国の合計特殊出生率は、第2次ベビーブーム期（1971年-1974年、2.14程度）を最後に、50年間は2を下回っており、直近では1.36となっている。



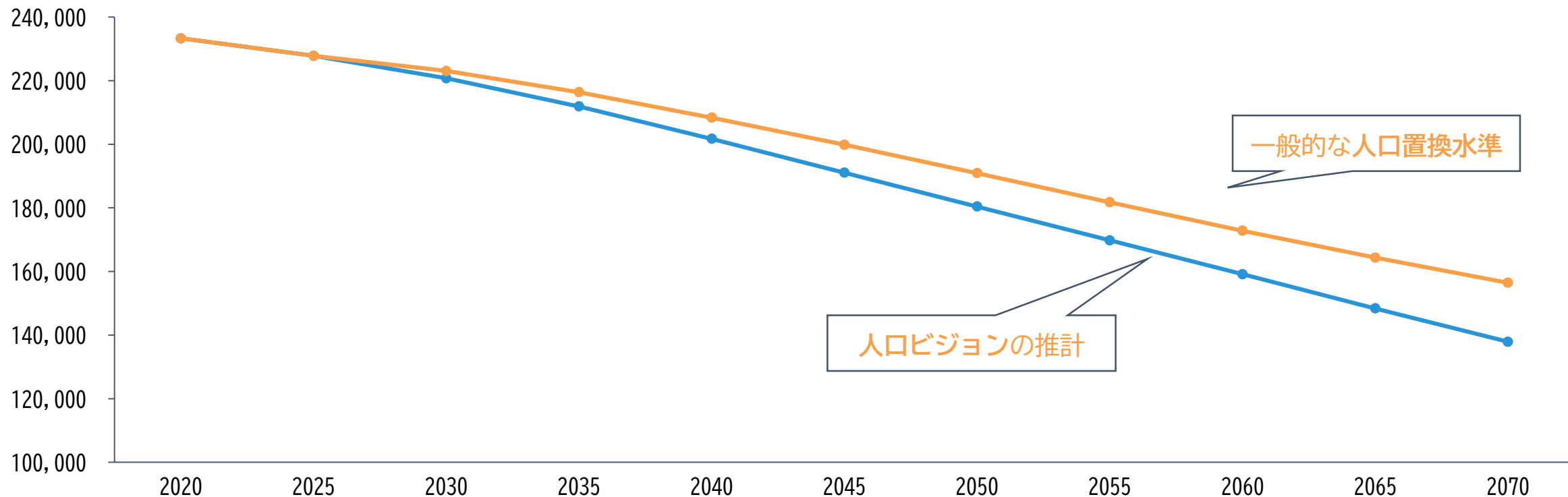
# 第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移（出生率シミュレーション）

## ポイント（速報値）

- 仮に出生率が、人口が将来にわたって増えも減りもせず、親の世代と同数で置き換わる水準（＝人口置換水準、2.07）まで上がっても、一定期間は人口減少が続く。
- 現在の人口水準を維持するためには、3.9程度の出生率が必要

佐賀市人口ビジョンにおける出生率のシミュレーション

● 出生率 1.61 ● 出生率 2.07



# 第2章 人口ビジョン | 人口構造の変化と推移（人口置換水準について）

なぜ、出生率が人口置換水準まで上がっても、人口が減少し続けるのか？

前提：人口を維持or増加する条件

出生数  $\geq$  死亡数

※自然増減のみを鑑みた場合



佐賀市の場合…

既に少子・高齢化が進んでおり、  
高齢者の割合が多く生育年齢の人口の割合は少ない。



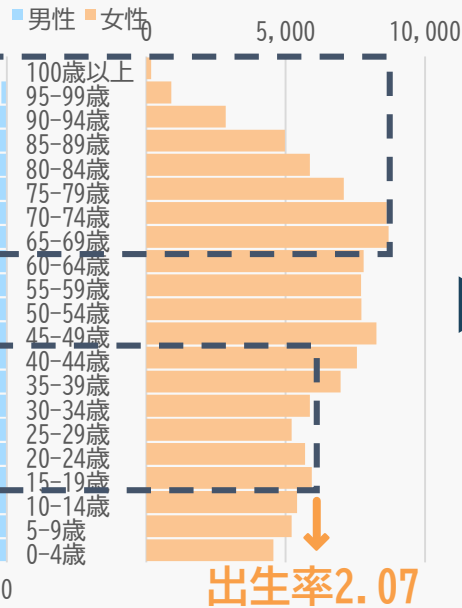
人口置換水準を達成した場合でも…

- 生育年齢の割合が少ないため、**高齢者の数を「置換」できない。**
- 高齢者割合が一定水準まで下がるまでは、人口減少が続く。

## 人口置換水準（出生率2.07）を達成した場合の人口ピラミッド

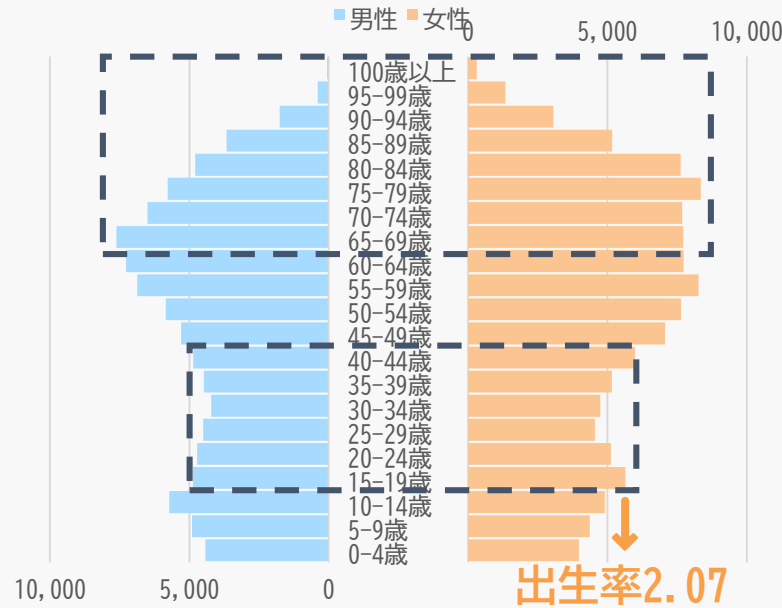
出典 | 佐賀市人口ビジョン（令和4年度）から推計

2020年



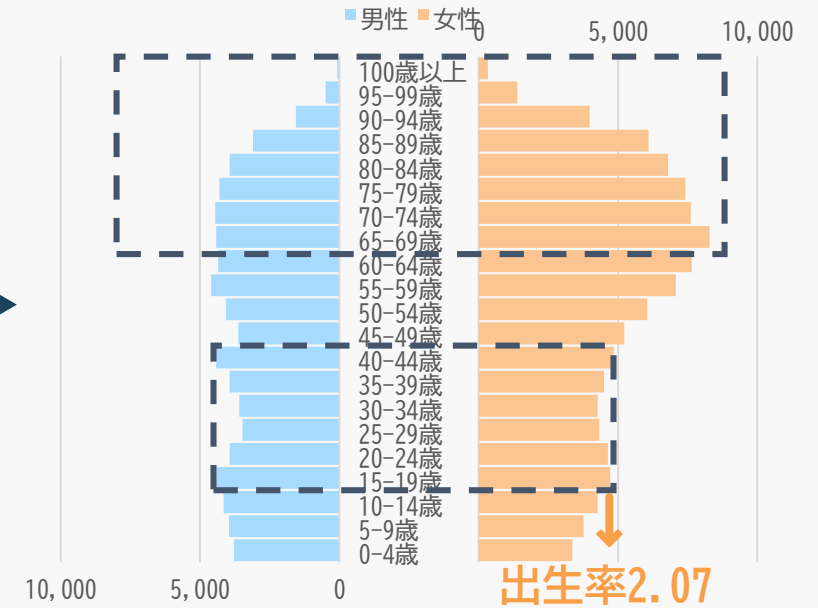
既に高齢者割合（団塊世代）が多い

2040年



団塊ジュニア世代が高齢者となる

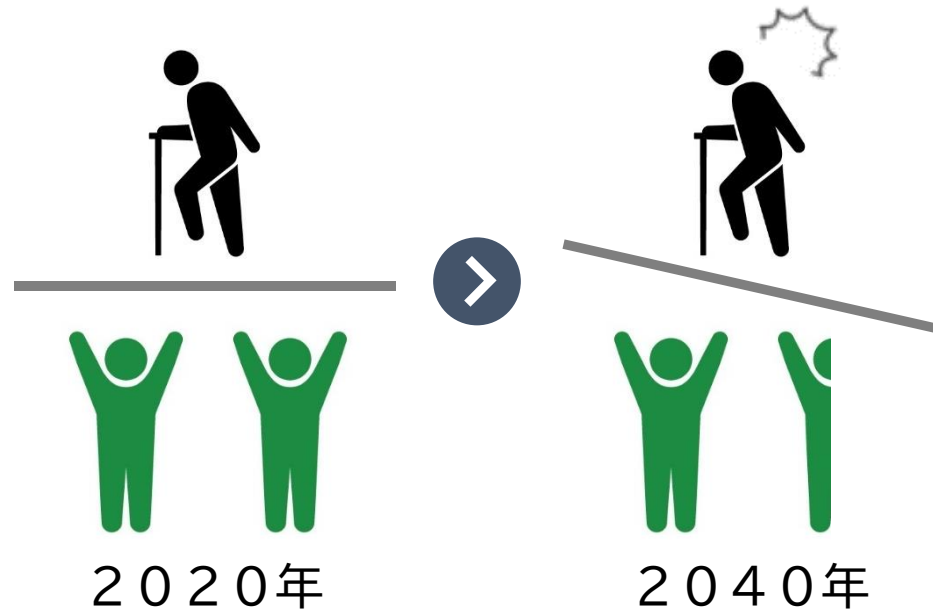
2070年



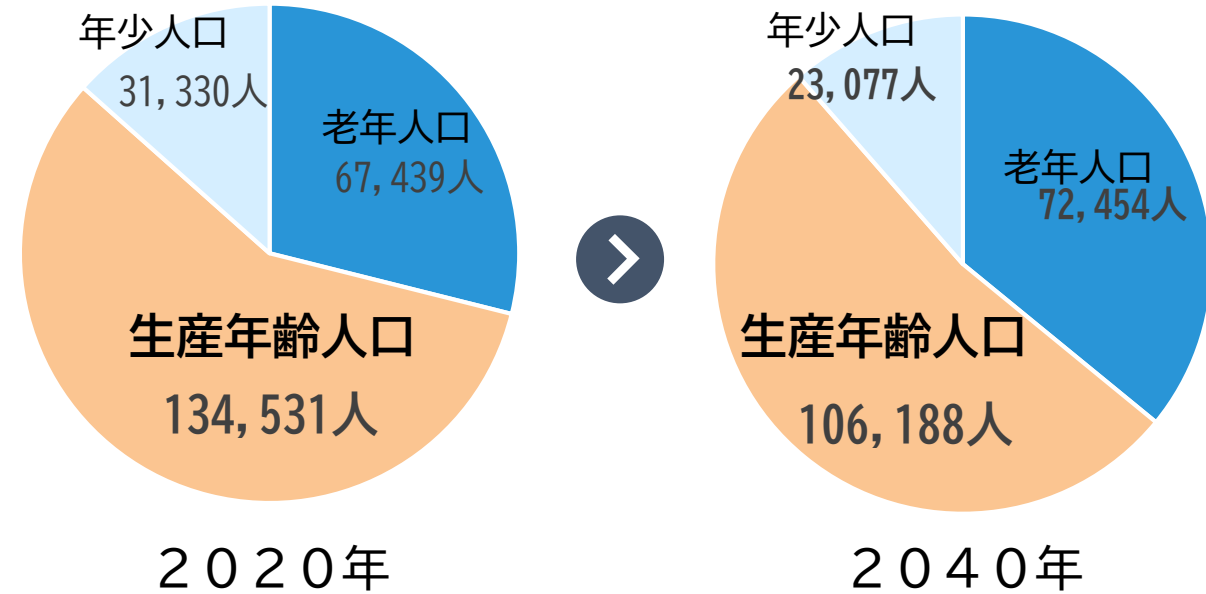
依然、高齢者割合が多く  
人口減少は続く見込み

## 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（2040年の変化）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



働く人の減少が加速する



# 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（発想の転換）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



## 人口減少を踏まえた発想の転換



### 転換の内容

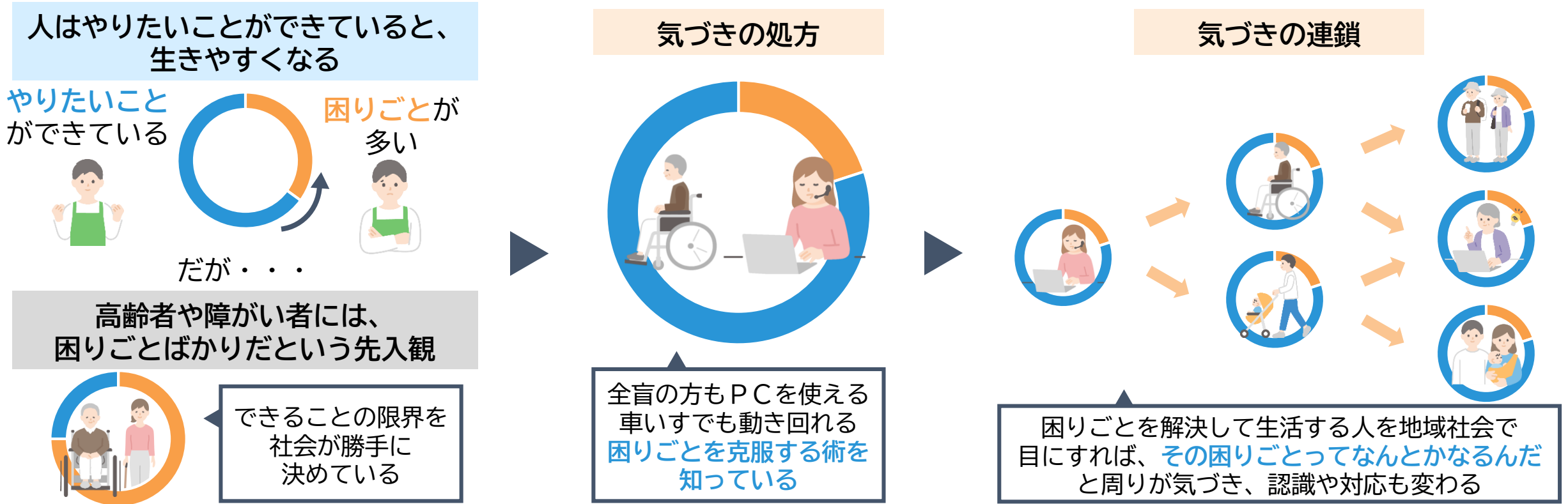
- 未来を担う子どもや子育て世帯を社会全体で支える構造への転換
- 健康増進等により、元気ではたらく意欲のあるひとは活躍できる就労環境 等

# 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（発想の転換）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



## 「気づきの処方」の連鎖



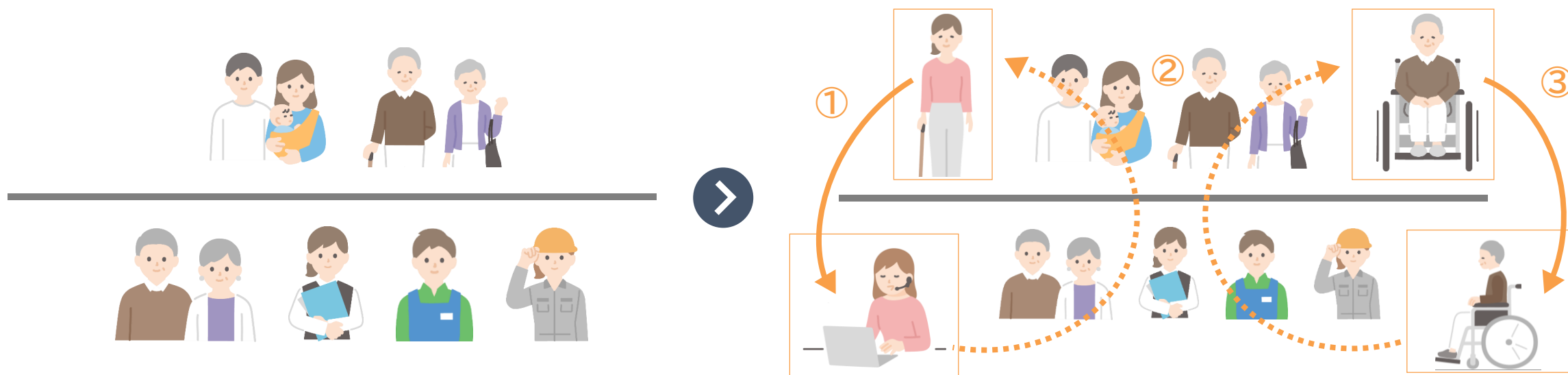
➤ 困りごとを減らしながら、やりたいことができることを  
社会の中で気づきやすくすることで、生きる希望が湧く社会へ

## 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（発想の転換）

高齢者が増え、それを支える若者が減る



「気づきの処方」の連鎖で、みんなが生きやすくなる



- ① 本人が困りごとを克服する術に気づく機会を創る
- ② 社会が困りごとを克服できると気づく
- ③ 全員がやりたいことに取り組める



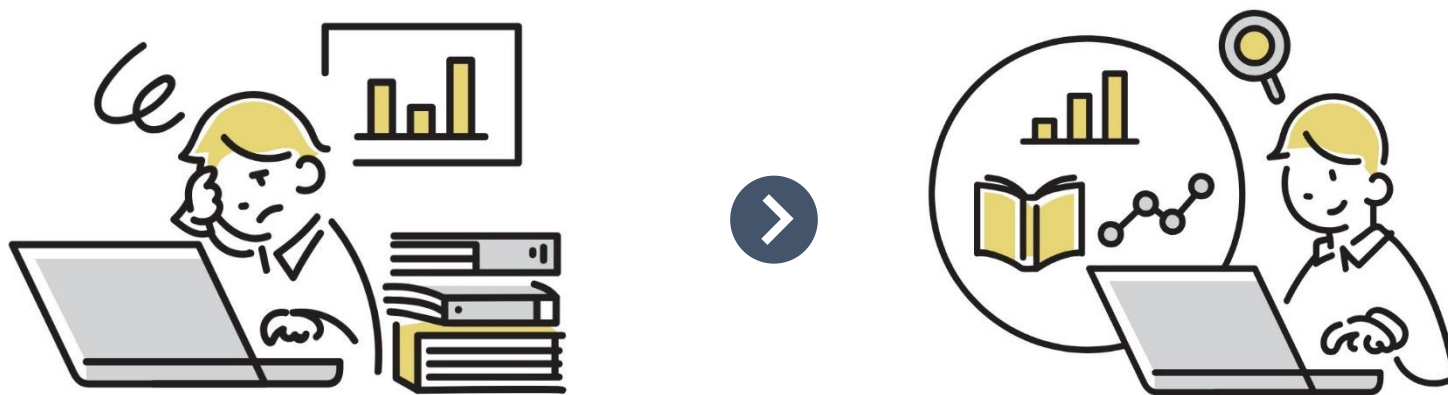
みんなそれぞれが、生きやすい社会になる

## 第2章 人口ビジョン | 将来の人口構造等の展望（発想の転換）

働く人の減少が加速する



生産性向上や多様な働き方へ発想の転換



- AI等の最新技術やデータを活用することによる生産の自動化や情報の可視化・誘導
- 働く人に光を当て、自分らしい働き方ができるような社会の構築

# 計画素案 目次

## 第1章 序論

## 第2章 人口ビジョン

## 第3章 2040年にめざす姿（基本構想）

- 2040年の将来像
  - ・ 将来像
  - ・ 将来像に向けた目標
- AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり
- 土地利用

## 第4章 各分野のめざす姿（基本計画）

## 参考資料 データ集

# 第3章 基本構想 | 計画の体系図

## 基本構想

### 2040年の将来像

ワークショップやアンケート等から、  
佐賀は多様な魅力、佐賀らしさがあるまち  
(自然と都市の調和、暮らしやすさ、地域のつながり…)



2040年における佐賀らしさが  
「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく  
暮らせること」となるよう目指す。



### 将来像『佐賀らしさでみんなが上を向くまち（仮）』

<将来像に向けた目標>

- 変化に向き合い挑み続けることで進化し続けるまちになろう
- どんなひとでも自分らしく幸せに暮らせるまちにしよう
- どんなひとでも自分らしいしごとで新たな価値を生めるまちにしよう



人口ビジョン

新設

AI等の最新技術と  
データを活用した  
まちづくり  
[佐賀市DX推進方針と連動]

土地利用  
[佐賀市都市計画  
マスタープランと連動]

細分化  
7→10

基本計画

新設

基本政策

横断的視点

子育て・教育

健康・福祉

文化・スポーツ

経済・観光

農林水産

生活・環境

コミュニティ

防災・安全

都市・交通

行政経営

- 主体性
- 多様性
- 持続性
- 柔軟性

# 第3章 基本構想 | 2040年の将来像（目指す将来像）

## 『佐賀らしさでみんなが上を向くまち（仮）』

わたしたちはこれまで、「佐賀らしさ」というものにどれだけ目を向けてきたでしょうか。

豊かな自然に囲まれながら、都市と調和した便利な暮らしができること  
平坦で広い平野の上で、どこまでも続く広い空の下で、のびのびと過ごせること  
身近なところに温泉があり、美味しい食事に囲まれていること  
ときに街に出かけ、ときにスポーツや文化に夢中になる、そんなワクワクがたくさんあること  
暮らす人々がふれあい、つながり合う、あたたかい地域があること

暮らしの中で当たり前前に感じていることが、実は、わたしたちが好きな「佐賀らしさ」でもあります。

この「佐賀らしさ」をこれから先も大切にしていきたい。  
これから新しく生まれる技術や発想で、この「佐賀らしさ」をもっと磨き上げていきたい。

そして、2040年に佐賀市に暮らす人々、佐賀市を訪れる人々が、  
「佐賀らしさ」に触れ、幸せで、豊かな気持ちでいてほしい。

このような願いを込めて、この第3次佐賀市総合計画では、  
2040年における「佐賀らしさ」が「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」  
となるよう目指します。

そして、時代が大きく変化する中であっても、大空に浮かぶバルーンを見上げるように  
「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」を2040年に目指す将来像に掲げます。

## 第3章 基本構想 | 2040年の将来像（将来像に向けた目標）

2040年における「佐賀らしさ」が、  
「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」  
となることを目指して…



### 変化に向き合い挑み続けることで進化し続けるまちになろう

01

気候変動や災害の激甚化、人口構造の変化など、わたしたちを取り巻く環境は大きく変化していきます。わたしたちの「まち」も、常に時代や社会の変化に対応することを求められています。

これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人 来る人にとって心地いいまちづくりを進めていきます。



# 第3章 基本構想 | 2040年の将来像（将来像に向けた目標）

2040年における「佐賀らしさ」が、  
「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」  
となることを目指して…



## どんなひとでも自分らしく幸せに暮らせるまちにしよう

02

これから目指すまちづくりは、「ひと」が中心のまちづくりです。人口減少の局面を迎える中では、暮らしの基盤となる経済的な価値だけでなく、一人ひとりの幸福や体験の豊かさといった心の価値の両方を大切にしなければなりません。

新しい発想や技術は取り入れる一方で、どんなひとでも自分らしく暮らせることを大切にすることで、みんなが幸せに思えるまちづくりを進めていきます。



## 第3章 基本構想 | 2040年の将来像（将来像に向けた目標）

2040年における「佐賀らしさ」が、  
「みんながこのまちのことを好きで、一人ひとりが自分らしく暮らせること」  
となることを目指して…



### どんなひとでも自分らしいしごとで新たな価値を生めるまちにしよう

03

しごとのあり方は時代とともに大きく変化し、内容だけでなく、働き方や仕事への向き合い方も多様化しています。

一人ひとりが自分に合った「しごと」を選び自分らしく働けるような、選択肢の多い環境をつくる。そこから新たな価値が生まれ、一人ひとりの豊かな暮らしをつくり、まちの明日の活力となる。働く人の視点を大切にしながら、しごとから生まれる価値を追求するまちづくりを進めていきます。



# 第3章 基本構想 | A I等の最新技術とデータを活用したまちづくり

## 方針

価値観を変え、佐賀らしさを引き立てるまちづくり（仮）  
：2040年の暮らしを支え、幸福を実感できる佐賀市へ

2040年の未来、人口構造をはじめとした様々な変化が予想される中、この変化に挑み続けるために最新技術とデータは重要なカギとなります。

人口が増えている時期は、サービスが次々と供給されていたため、人がサービスに合わせれば効率が上がりました。しかし、これからの人口が減少する局面ではサービスの総量が減るため、サービスが人々の暮らしに合わせる必要があります。つまり、人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせていく時代になってきています。

社会が人に合わせるためには、最新技術やデータの活用が必要不可欠であり、技術の進歩こそが、わたしたちの未来を明るくすると考えています。そこで、この総合計画を推進していく上で、わたしたちは最新技術とデータを積極的に活用していきます。目指す方針は、「価値観を変え、佐賀らしさを引き立てるまちづくり」です。

社会が人に合わせることで、一人ひとりの暮らしが便利になり、時間や心に余裕をもたらします。その結果、人々は物質的な便利さや機能性を求めるのではなく、本質的な幸せ、例えば良好な環境や健康を大切にするように価値観を変えるのではないでしょうか。そして、地域と深く結びつきながら、互いに助け合うコミュニティ、都市と自然が調和した生活、美味しい食べ物…そんな佐賀らしさは引き立ち、人々が幸せに暮らせるまちとして選ばれ、磨き上げられていくと考えます。

最新技術とデータの活用によって、物質的な豊かさ＝便利から、精神的な豊かさ＝幸福に価値観が変化し、それに合わせたまちづくりにシフトしていく。このことが2040年の暮らしを支え、幸福を実感できる佐賀市となるようなまちづくりを目指します。







# 第3章 基本構想 | AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり

一人ひとりの暮らしに合わせるための  
最新技術とデータ活用

人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせていく時代へ

人口増加局面

人口減少局面

 <b>仕事</b>	雇用先の就業ルールに従業員が合わせる	▶	従業員の暮らしに就業ルールが合わせる
 <b>交通</b>	乗客がバス停で時刻表のバスを待つ		迎いの車が乗客の都合に合わせる
 <b>買い物</b>	消費者が売っている店まで買いに行く		商品が消費者の家に届けられる
 <b>行政</b>	市役所に行って、手続きを申請する		通知を受け、手続きが自動的に行われる

2040年の暮らしを支え、幸福を実感できる佐賀市へ

価値観を変え、佐賀らしさを引き立てるまちづくり



価値観の変化

物質的な便利さや  
機能性から、本質的  
な幸福を追求する  
価値観の変化

佐賀らしさ

自然との調和や  
支え合う地域など  
佐賀らしさが  
際立ち、磨かれる



# 第3章 基本構想 | AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり

## データを活用した幸福度

- ひとの幸福度を最優先とするまちづくりを行うため、**市民の目線に立ち、市民の暮らしやすさや幸福感に繋がっているか確認しながら進める。**
- 幸福度については、地域幸福度（Well-Being）指標などの**データを活用し、「佐賀らしさ」に気づく材料とするとともに、このデータに基づいた立案・検証を進める。**

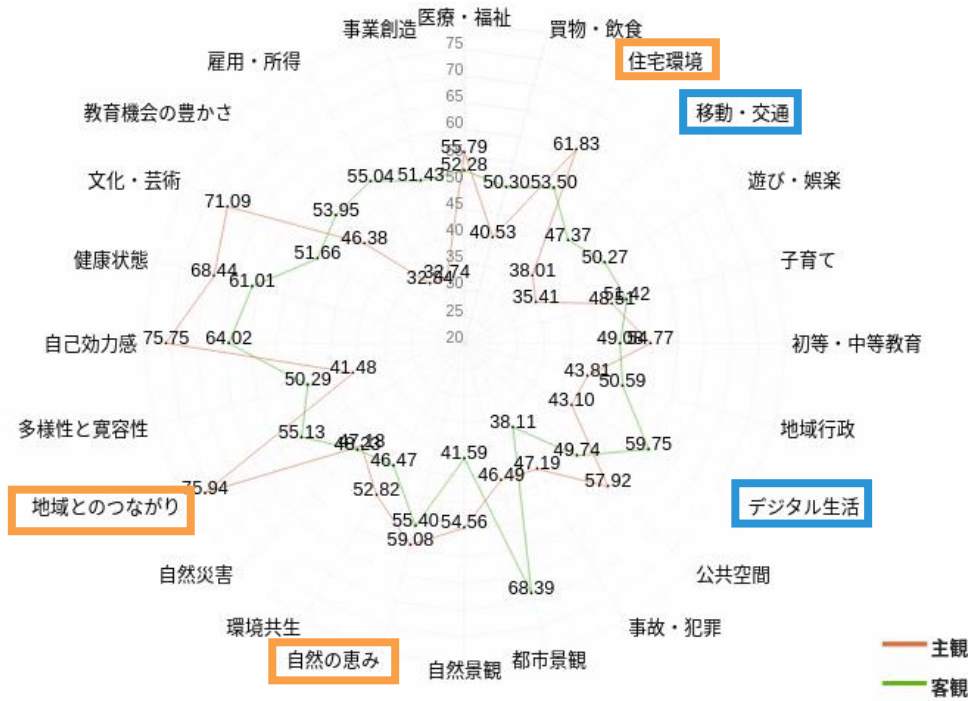
### [参考 | 地域幸福度（Well-Being）指標]

- 客観指標と主観指標のデータを活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を指標で数値化・可視化したもの
- ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出する目的



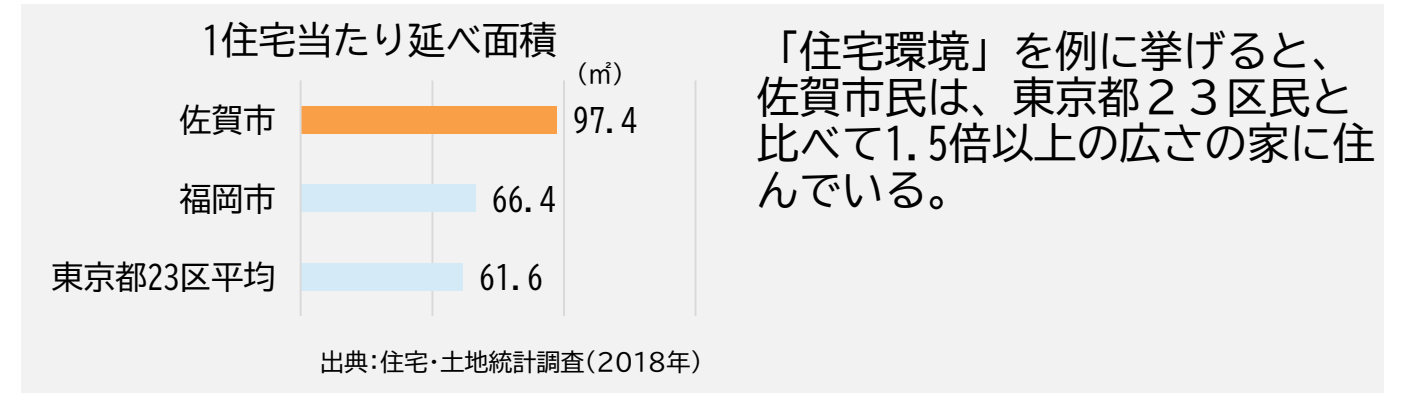
# 第3章 基本構想 | AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり

[参考 | 地域幸福度 (Well-Being) 指標]



## 指標の活用イメージ (指標から得られる気づき)

佐賀市のWell-Being指標を俯瞰したとき、「**地域とのつながり**」「**住宅環境**」「**自然の恵み**」等、「**都会にはない暮らしやすさ**」に関する指標が高いことが特徴 (=佐賀らしさ)



市の幸福度を上げるには、「**都会にはない暮らしやすさ**」を磨き上げながら、指標が低い「**移動・交通**」「**デジタル生活**」など、「**都会と同等の利便性**」を獲得することが重要ではないか？

⇒ 都会と同等の利便性を持ち、より人間が豊かに暮らせるまち

# 第3章 基本構想 | 土地利用

## 2040年に向けた土地利用の方針

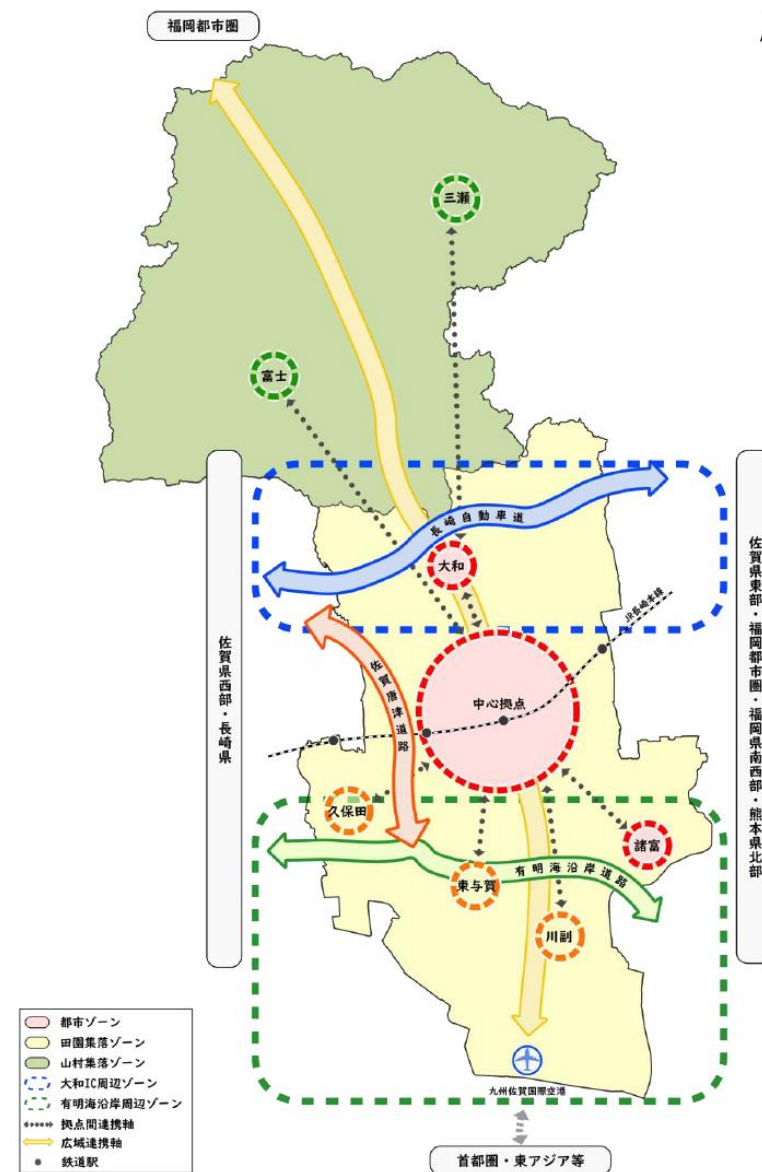
これから加速する人口減少、少子・高齢化に対応するためには、コンパクト・プラス・ネットワークをさらに磨き上げていくことが必要です。みんなに愛される「佐賀らしい」まちを目指して豊かな暮らしと未来への活力をつくる計画的な都市づくりを進めるために、地域の特性を踏まえ、5つのゾーンに分けて土地利用の方針を示します。

### ① 都市ゾーン

- 佐賀市の中心部、大和町、諸富町の市街地を都市ゾーンと位置づけ、生活利便性の維持・充実につながる都市機能を誘導するとともに、地域の特性を活かして様々なライフステージやライフスタイルに応じて住み続けられる居住環境をつくる。
- 都市機能が集積する都市ゾーンと各拠点等とのネットワークを維持・充実させることで、誰もが容易に多様なサービスを受けられるようにする。

### ② 田園集落ゾーン

- 川副町、東与賀町、久保田町などに位置する田園集落ゾーンは、農用地の保全に努めるとともに、災害リスクなどに十分配慮しながら各拠点を含む集落機能が将来にわたって維持できるよう適切な土地利用を進める。



▲方針のイメージ図（将来都市構造図）

# 第3章 基本構想 | 土地利用

## 2040年に向けた土地利用の方針

### ③ 山村集落ゾーン

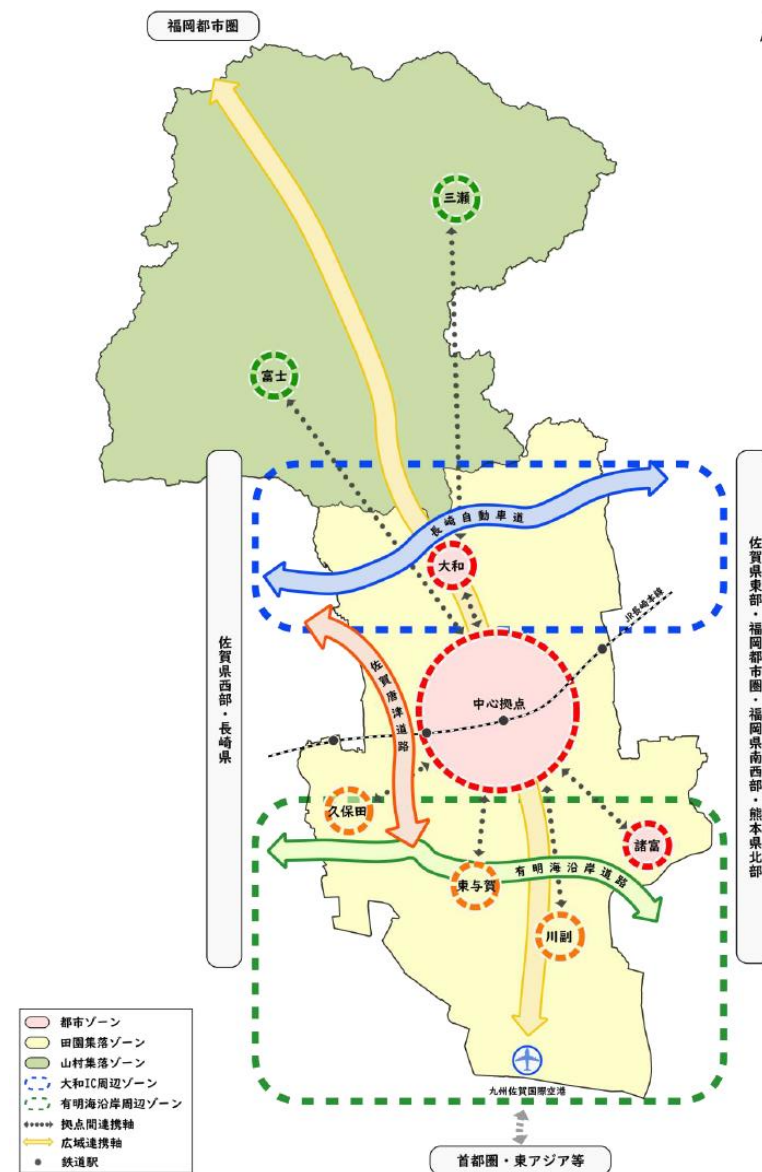
- 富士町や三瀬村などに位置する山村集落ゾーンは、山間部や里山の森林などを保全し、豊かな自然とふれあう場として活用するとともに、各拠点を含む集落機能を維持する。

### ④ 大和IC周辺ゾーン

- 産業団地が立地する佐賀大和インターチェンジ（長崎自動車道）周辺は、広域的な交通利便性を活かし、周辺の自然や農用地との調和を図りながら、さらなる産業用地としての活用を促すとともに、福岡都市圏からの受け入れ体制を充実し、市の活力を高める。

### ⑤ 有明海沿岸周辺ゾーン

- 有明海沿岸道路と九州佐賀国際空港を有する有明海沿岸周辺は、佐賀唐津道路を含む広域道路ネットワークを活かした新たな産業基盤や各地域の特色を取り入れた人々の交流の場をつくとともに、空港を活用した国内外との交流を促し、県都として県全体の発展をリードする新たな土地利用を進める。
- 有明海に広がる雄大な干潟などの豊かな自然環境を保全するとともに、魅力ある観光資源を活用し、体験学習や交流の場となるブルー・ツーリズムなどを推進する。



▲方針のイメージ図（将来都市構造図）

# 計画素案 目次

## 第1章 序論

## 第2章 人口ビジョン

## 第3章 2040年にめざす姿（基本構想）

## 第4章 各分野のめざす姿（基本計画）

- 横断的な視点
  - ・ 主体性 / 多様性 / 持続性 / 柔軟性
- 分野別のめざす姿（分野別計画）
  - ・ 政策、施策毎に整理
    - 子育て・教育 / 健康・福祉 / 文化・スポーツ
    - 経済・観光 / 農林水産 / 生活・環境 / コミュニティ
    - 防災・安全 / 都市・交通 / 行政経営
  - ・ SDGsと政策の対応

## 参考資料 データ集

# 第4章 基本計画 | 横断的視点

## 主体性 主体性を持ち、安心して暮らし続けられる地域社会へ

01

少子・高齢化などの社会情勢の変化に対応し、安全で快適な暮らしを実現するためには、住む人々のつながりや関係性を日々充実させ、市民等（市民、民間企業、地域コミュニティなど）が主体のまちづくりが求められています。市民等と行政が互いに情報共有を行い、主体性を尊重してみんなが積極的に参加し、お互いに得意なことを活かして協働する、みんなが主役のまちづくりを進めていきます。

## 多様性 多様性を理解し、尊重する社会へ

02

社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダーなどの多様性を認め合う社会の実現が求められています。このような変化を互いに受け容れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重したうえで支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。

# 第4章 基本計画 | 横断的視点

## 持続性 持続性を追求し、次世代につながる社会へ

03

気候変動から地球を守るために、いま、世界的に具体的な対策が求められています。自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用や脱炭素型のライフスタイルを進めることで、カーボンニュートラルの実現を目指します。また、産業革命以来の化石燃料中心の経済や社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させた経済社会システム全体の变革にも注目していきます。

## 柔軟性 柔軟性を高め、変わり続ける社会へ

04

AI等の新しい技術の進歩や新しい発想は日々生みだされており、世の中は急速に変化し続けています。これからの時代に適応していくためには、変化やその予測を機敏に察知し、素早く対応していく姿勢が求められます。時代に取り残されることがないように、変わることをおそれず、新しいものを次々と取り入れていくことで、変わり続ける社会を目指します。

# 第4章 基本計画 | 分野別のめざす姿（分野別計画）

基本政策 (10)	基本政策の目指す姿	施策 (31)	施策の目指す姿
子育て・ 教育	こどもの幸せを何よりも 優先するまち	1 こどもたちの幸せと健やかな成長を 育む環境の充実	こどもたちは、将来に夢と希望を持ち、健やかに成長している。
		2 多様な未来につなげる教育の推進	こどもたちは、協働的で個性が尊重される学習環境のもと、目標を持って主体的に楽しく学んでいる。
		3 地域全体で支えるこどもの健全育成	家庭・地域・企業等のすべての大人は、地域全体で協力してこどもの育ちを支え、こどもも大人も笑顔で過ごしている。
		4 いつでもどこでも学ぶことができる 生涯学習の推進	こどもも大人も、好きな時に好きな場所で必要な知識や技術を学び、生きがいをもって暮らしている。
健康・福祉	健やかに、幸せに満ちた まち	5 地域共生社会をめざす福祉の充実	市民一人ひとりが生きがいや役割を持ち、世代を超えてつながり暮らしていくことのできる社会を目指す。
		6 日頃から取り組む健康づくりの推進	市民は自ら健康づくりに取り組み、地域でいきいきと暮らしている。
文化・ スポーツ	心豊かに夢と誇りを未来 につなぐまち	7 する・みる・ささえるスポーツの推進	市民は、する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる。
		8 文化の魅力を高め未来へ	市民は、歴史や風土に育まれた文化を大切にしながら新たな文化の創造に取り組み、心豊かに暮らしている。

# 第4章 基本計画 | 分野別のめざす姿（分野別計画）

基本政策 (10)	基本政策の目指す姿	施策 (31)	施策の目指す姿
経済・観光	「ひと」と「しごと」に 選ばれ、稼ぐまち	9 働きがいのある企業を増やす	企業等は、事業活動を通して、地域課題の解決や従業員の豊かな生活を実現しながら持続的に成長を続けている。
		10 価値のある観光体験の提供	市を訪れた人は、多様な体験を通じて佐賀の魅力に気づき、何度も足を運んでいる。
		11 ここにしかないモノ・コトが集まる 「まちなか」への進化	市民は、魅力ある都市機能が集まるにぎわうまちなかで、平日・休日の両方を楽しく過ごし、佐賀に誇りと愛着を持っている。
農林水産	こどもたちが農林水産業 をしごとに選ぶまち	12 感動を与え、稼ぐ農業の実現	市民は、農業に魅力を感じ、豊かな農産物を誇りに思っ て暮らしている。
		13 森林を守り、育て、使う林業の発展	市民は、森林資源を循環利用することで、豊かな森の恵 みを感じながら暮らしている。
		14 活力ある水産業と豊かな海・有明海の 共生	市民は、有明海を守り、豊かな海の恵みを感じながら暮 らしている。
生活・環境	豊かな自然に包まれ、 人々が心地よく暮らすま ち	15 脱炭素が当たり前の社会の実現	市民は、徒歩や自転車、公共交通機関で移動し、市民生活 や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで 賄われている。
		16 「捨てる暮らし」から「活かすくら し」への転換	市民や事業者は、3R（リデュース、リユース、リサイク ル）の大切さを理解し、無理せず楽しく取り組んでいる。
		17 豊かな自然と心地よい暮らしの調和	市民は、豊かな自然を守るため、自らできることに取り組 み、自然や動物と共生するまちで快適に暮らしている。

# 第4章 基本計画 | 分野別のめざす姿（分野別計画）

基本政策 (10)	基本政策の目指す姿	施策 (31)	施策の目指す姿
コミュニティ	ひと×ひとで多様に彩るまち	18 みんなが主役のまちづくり	市民は、積極的に参加と協働のまちづくりに取り組んでいる。
		19 お互いを尊重しあう、優しい社会の実現	市民は、一人ひとりの個性や価値観を活かし、自分らしく幸せに暮らしている。
		20 多文化共生による暮らしやすさの推進	市民は、国籍に関わらず言語や文化、生活習慣などの違いを認め合い、地域社会の一員として活躍している。
防災・安全	安全な暮らしが日々の備えで支えられているまち	21 総合的な防災・危機管理対策の充実	市民は、防災・危機管理対策の充実を実感し、安心して暮らしている
		22 激甚化・頻発化する水害に備えたまちづくり	市民は、水害への安心感が増した暮らしを実感している。
		23 地域ぐるみによる生活者の安全確保	市民は、交通事故や犯罪に巻き込まれることなく、安心して穏やかな日々を送っている。

# 第4章 基本計画 | 分野別のめざす姿（分野別計画）

基本政策 (10)	基本政策の目指す姿	施策 (31)	施策の目指す姿
都市・交通	人中心に暮らしやすさが整ったまち	24 魅力ある居住環境の創出	市民は、自分たちのライフスタイルに合わせて、安心して心地よく住んでいる。
		25 市民と織りなす都市のみどりと美しい景観	市民は、まちのみどりを楽しみながら、心地よく暮らしている。
		26 多様な移動ニーズに応える地域公共交通の実現	市民や来訪者は、さまざまな交通手段を自由に選んで、スムーズに移動している。
		27 人と環境に配慮した道路ネットワーク整備	市民は、地域を結ぶ道路や生活道路を快適に安全に通行している。
		28 暮らしを支える安全安心な上下水道の整備	市民は、いつでも蛇口からおいしい水を飲み、トイレを快適に使用できる。
行政経営	OPENなしせい（市政・姿勢）で挑むまち	29 双方向のコミュニケーションによるファンづくり	市民は、誰でも、いつでも、どこでも、必要な情報を手に入れることができ、多くの人が佐賀市に関わりたいと思っている。
		30 信頼される持続可能な行政運営	市民は、選択と集中による質の高い行政サービスに満足し、行政運営を信頼している。

# 第4章 基本計画 | 各施策のイメージ（バックキャストिंगの考え方）

## ポイント

- 「現状」と「将来（目指す姿）」のギャップを課題として設定
- 「課題」とその課題に向けた「取組方針」について取りまとめ、計画に記載する。
- 以下は、バックキャストिंगのイメージに関する例示

## 農林水産 | こどもたちが農林水産業をしごとを選ぶまち

【課題（＝現状と将来のギャップ）】  
収益性を向上させる方策の構築



【取組方針】

- ・スマート農業の普及等により、農作業の省力化や高品質化といった「稼ぐ農業の確立」
- ・活用する農地と畑地・林地化する農地の選択や圃場・農道の大規模化等の「生産基盤の整備」

【施策】  
感動を与え、稼ぐ農業の実現  
【目指す姿】  
市民は、農業に魅力を感じ、豊かな農産物を誇りに思っている。

バック  
キャストिंग

【現状】

小規模な経営体が多いなど、  
収益性の向上が必要

2025

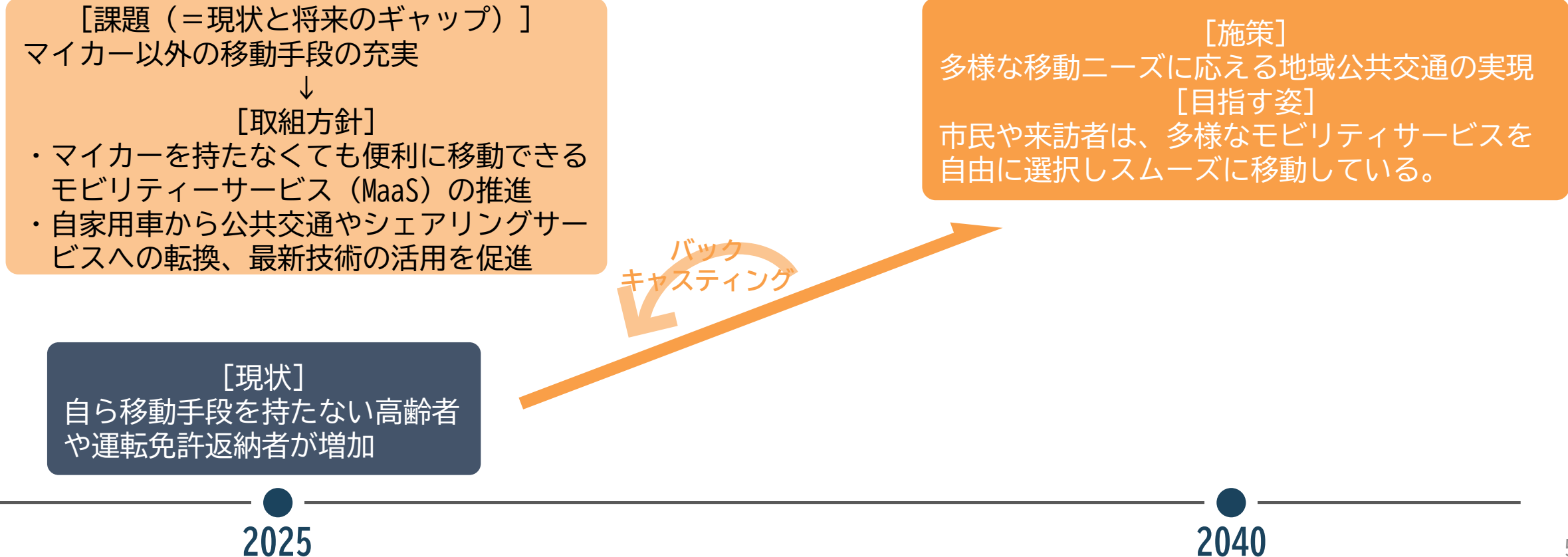
2040

# 第4章 基本計画 | 各施策のイメージ（バックキャストिंगの考え方）

## ポイント

- 「現状」と「将来（目指す姿）」のギャップを課題として設定
- 「課題」とその課題に向けた「取組方針」について取りまとめ、計画に記載する。
- 以下は、バックキャストिंगのイメージに関する例示

## 都市・交通 | 人中心に暮らしやすさが整ったまち



# 第4章 基本計画 | 各施策のイメージ（バックキャストिंगの考え方）

## ポイント

- 「現状」と「将来（目指す姿）」のギャップを課題として設定
- 「課題」とその課題に向けた「取組方針」について取りまとめ、計画に記載する。
- 以下は、バックキャストिंगのイメージに関する例示

## 行政経営 | OPENなしせい（市政・姿勢）で挑むまち

【課題（＝現状と将来のギャップ）】  
従来のプル型（申請・窓口主義）からプッシュ型（DX・伴走主義）サービスへの転換



【取組方針】  
窓口に行かなくていい、窓口で時間がかからない仕組みの構築（窓口改革）

### 【現状】

- ・ 市民の申請や手続きの負担が大きく、申請の漏れも見受けられる
- ・ 少子高齢化に伴う行政コストの削減や職員減への対応が必要

【施策】  
信頼される持続可能な行政運営  
【目指す姿】  
市民は、選択と集中による質の高い行政サービスに満足し、行政運営を信頼している。

バック  
キャストिंग

2025

2040

# 第4章 基本計画 | 分野別のめざす姿（SDGsと政策の対応）

## ポイント

- 総合計画の各政策とSDGsの17のゴールとの関係を表に整理
- 佐賀市総合計画の将来像の実現が、SDGsの達成にどのように関連するのかを可視化する。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

